

# 新しい年を迎えて必要なもの ごちゃませ

昨年は一昨年から引き続いての戦争や物価高があり、更に1月1日には能登半島地震が発生するなど年の初めからどんな年になるのだろうと思っていましたが、何とか皆様と共に**新しい年を迎えることができました**。お正月だし何か明るい話題をと探してはいるのですがオリンピックや大谷選手の活躍に関しては、凄い！という感嘆の言葉しか私も出て来ません。それでは困るので、今回は能登半島地震を通じて感心したことを書きたいと思います。

昨年のお正月に**能登半島地震**が起きてから様々な被害状況や**復興への取り組み**が伝えられました。その中の一つに「**輪島カブーレ**」という施設を運営する**社会福祉法人 佛子園**がカンブリア宮殿で紹介されていました。元々、この「**輪島カブーレ**」は**障害者就労・高齢者デイサービス・温泉・食事・スポーツジムを兼ね備えた様々な人が集える施設**です。その施設も能登半島地震の影響を受けて**大きく被災した**のですが、「人々に日常を感じられる場所を取り戻したい」ということで震災の二日後には施設へと物資を運び、十一日後には入浴できるようになるなど**早期の復興を目指した**そうです。そのお陰で被災地には暗い話題しかない中で「あそこに行けばもうお風呂に入れる」「皆で食事が取れるようになった」など、暗闇を照らす灯台のように周囲の心の支えになったそうです。佛子園の活動はそれだけでは終わらず、店を失って再建の見通しが立たない輪島の飲食店に「店を廃業する前に屋台村をやりませんか」と声をかけて少しでも活力になればと企画をしたそうです。その結果、様々なお店が出店する屋台村として人を集め、来る人にも、お店側にも元気を出して貰える、そんな場所になったそうです。

この他にも今回の被災に対して様々な手を打っているのがこの**佛子園の代表である雄谷良成(おおや りょうせい)氏**です。この方、日蓮宗の住職もされているのですが、この雄谷さんの祖父にあたる住職の方が戦後、障害のある戦災孤児たちをお寺に受け入れて社会福祉法人佛子園をスタートさせたそうです。雄谷さんも小さい頃から施設の方と一緒に育ち、自身も**青年海外協力隊に所属してドミニカ共和国に行かれた**そうです。そして、当時まったく社会保障制度が整備されず**親がいない子供なども溢れていた中、周囲の人が自然と子供の面倒を見ていた状況**をみて、感動したそうです。帰国後は「こういった隣人同士がつながり、助け合って暮らす理想のコミュニティを金沢にもつくろう」と**若い人も高齢者も障害者も皆が一緒に生活して活気を生む、「ごちゃませ」という理念**をもって施設を運営、拡大されてきたそうです。今では石川県を中心に従業員1000名を超える大きな法人で16以上の施設を運営されています。自身も青年海外協力隊の理事長も兼務して能登半島地震以前の東日本大震災や熊本地震の復興にも関わり、様々なノウハウを蓄積されていたそうです。凄い方ですね！

この「ごちゃませ」という考え方は色々なところに当てはまるかなと思います。社会においても「多様性の時代」ということで様々な意見が尊重されていますし、身近なところだと、このお正月行事は元々お子さんや外部の方を含めて様々な方に来て頂けたらという行事です。その為、お寺の中でも一番活気がある行事だと思います。あと樹木葬を始めてからはお寺自体もごちゃませになってきたように思います。始める前までこのお寺は一般のお墓のみだった為、「きちんとお墓を建てて子供まで含めて長く供養したい」という方だけでした。少子高齢化の時代背景や価値観の変化もあったように思いますが、徐々に新しく入ってくる方が減り、活気が無くなったように思います。しかし、樹木葬を始めてからは「誰かの供養をしたい」という幅広い方がお寺に通い、お墓に通い、供養をしてくれます。うちの場合、丁度墓地の入り口に樹木葬がある為、そこによく献花されている風景をみた方からは「みんな、よく供養をしてくれるようになりましたね」と声をかけて頂いたこともあります。本当に少しずつですが、ごちゃませの影響で、このお寺も少し活気が出てきたのかなと思っています。

もう一度、佛子園の話に戻りますが、テレビでも議論されていましたが震災が起きた場合、高齢者・障害者・大人・子供などがバラバラに生活することはまずないそうです。確かに避難所ではそれこそ皆が一緒です。復興していく段階で限られた物や場所しかない中で個別の対応をするのはなかなか難しいことでしょう。これは震災だけではなく、戦後もそうだったし、これからの貧しくなる日本社会でも同じではと言われていました。確かに、家族みんなが一つの家に生活していた時代、理由の一つとして親の家を継承して大切に使っていました。現代でも若い人がドンドンと家を建てていくというのは難しくなり、結婚までは自宅から職場に通勤する方が多くなってきました。親の介護に関しても動けるうちは自宅で面倒を見るという方が増えたように思います。もちろん、ごちゃませになることでトラブルや面倒はおきるでしょう。佛子園でもその連続だと言われていました。同時にみんなと一緒にいるという安心感があるのだとおっしゃっていました。そして今回の災害のようなごちゃませの状況になった時、そういったごちゃませの状況を経験している方は復興に関しても強かったと聞いています。

この世は基本的にごちゃませの世界です。色々な人や家庭、国、人種、宗教があって、更に刻々と変化していくのですからなおさらです。仏教においてもこの世は様々なことが起こり、悩み苦しみが続き、耐え忍ぶことが必要な世界だと説かれています。そして、だからこそ仏教の華である蓮のようにごちゃませの泥の中から栄養を貰って、綺麗な華を咲かせなさいと説かれています。不自然なほど透明で濁りも汚れもない水には栄養もなく、華は育たないのです。皆様も今年はぜひ少しだけでも何か新しい考えや体験に触れてみてはいかがでしょうか。良い栄養を貰えるかもしれません。どうぞ良いお年をお過ごしください。